



次期 香川県農業・農村基本計画（R8-R12）素案について

基本目標 「かがわの農業・農村」の未来を拓き、次世代へ継承

資料 1

2 稿（R7.10）

農業・農村を 取り巻く環境の変化

- ①人口減少に伴う国内市場の縮小と食の外部化
- ②食のグローバル化
- ③農業者の減少、法人経営体の増加
- ④地球温暖化の進行と自然災害等のリスク
- ⑤生産資材の高騰
- ⑥農村における地域社会の変化

攻め

本県農業・農村 の現状

- ①農業産出額及び、農業生産関連事業総販売額は増加しているが全国平均を下回る
- ②新規就農者は一定数確保しているものの、基幹的農業従事者の減少や高齢化が進展
- ③経営耕地面積及び主食用水稻の作付面積は長期的に減少傾向
- ④担い手への農地利用集積率は増加しているが、全国平均を下回り、ほ場整備率も全国低位
- ⑤約1割の専業農家等が販売額の約8割を生み出す一方、約9割の兼業農家等で農地の約7割を維持

守り

食の安定供給

基本方針Ⅰ 儲かる！魅力と未来ある農業の実現

1. 儲かる！かがわ型農業の実現

- ①消費者ニーズに応じた生産振興
- ②ブランド力の強化と販路拡大
- ③6次産業化・農商工連携の推進

指 標（R6現状 → R12目標）

● 県オリジナル品種の作付面積	263ha	→	313ha
● 主食用水稻の生産量	48,000 t	→	52,000 t
● 農業産出額（R5）	978億円	→	1,183億円

2. 農業の魅力を高める未来投資

- ①生産性を高める基盤整備の推進
- ②農地の集積・集約化と優良農地の確保
- ③新技術等の開発・普及による技術革新

指 標（R6現状 → R12目標）

● ほ場整備面積	7,760ha	→	7,989ha
● 地域計画において将来の受け手が位置づけられた農地の割合	28%	→	66%
● スマート農業技術導入経営体数（累計）	148営体	→	300経営体

3. 次世代の担い手の確保・育成

- ①核となる担い手の確保・育成
- ②新規就農者の確保・育成

指 標（R6現状 → R12目標）

● 新たな認定農業者（累計）	76.3経営体/年（R4～6平均）	→	80経営体/年（R8～12平均）
● 認定農業者である農業法人数	384法人	→	440法人
● 新規就農者数（累計）	692人（R2～6）	→	750人（R8～12）

基本方針Ⅱ 農村を守り、地域を支える農業の推進

1. 農村を支える人財の確保

- ①多様な農業人材の確保
- ②他産業を含めた農業支援サービス事業体の確保
- ③農福連携の推進
- ④短時間労働など柔軟な働き方の推進
- ⑤セーフティネットの確保・整備

指 標（R6現状 → R12目標）

● 多様な農業人材制度の認定者数	109人	→	700人
● 農業支援サービス事業体数	24事業体	→	40事業体

2. 農業生産基盤の保全管理と防災・減災対策

- ①農業水利施設の保全管理
- ②ため池の防災・減災対策

指 標（R6現状 → R12目標）

● 基幹水路保全対策延長	155km	→	181km
● 水土里ビジョンを策定した土地改良区数	—	→	60土地改良区
● 老朽ため池の整備箇所数（全面改修）	3,593箇所	→	3,730箇所

3. 継続できる農業の実現

- ①集落営農組織の持続的発展
- ②地域資源を活用したスモール農業の推進
- ③農地を一元管理する地域まると中間管理方式の導入

指 標（R6現状 → R12目標）

● 集落営農法人への農地集積面積	1,540ha	→	1,640ha
● 農地を一元管理する地域の支援箇所数	—	→	7地域

4. 農村の振興

- ①農地・農村環境の持続的な保全管理
- ②農村の活性化

指 標（R6現状 → R12目標）

● 多面的機能の維持・発揮活動を行う農用地面積	15,308ha	→	16,000ha
● イノシシ・ニホンザル・ニホンジカによる農作物被害金額	113百万円	→	78百万円以下
● グリーン・ツーリズム交流施設の体験・宿泊者数	137,200人	→	149,200人

基本方針Ⅲ 持続的な農産物の供給

1. 農産物の安定供給

- ①安定した食料システムの確立
- ②全世代を対象とした食育・花育の推進
- ③インバウンドによる食関連消費の拡大
- ④流通の合理化・効率化
- ⑤合理的価格形成を啓発・普及

指 標（R6現状 → R12目標）

● かがわ地産地消協力店の登録店舗数	401店舗	→	491店舗
● 集出荷施設等の機能強化・再編数（累計）	—	→	6施設

2. 食の安全・安心の推進

- ①GAPなど生産工程管理の推進
- ②HACCPなど食品衛生管理の推進
- ③防疫体制の整備

指 標（R6現状 → R12目標）

● GAP指導員による指導・助言を行った農家数	99件	→	104件（R5）
● 飼養衛生管理指導など計画に定める重点的指導事項の遵守率	95.7%	→	100%

3. 環境と調和のとれた食料システムの確立

- ①耕畜連携による資源循環型農業の推進
- ②みどりの食料システムの普及

指 標（R6現状 → R12目標）

● 耕畜連携マッチングによる青刈りとうもろこし作付面積	45ha	→	100ha
● みどり認定者数	64人	→	256人